

よくいただくご質問 

Q₁ 妊娠中はあかちゃんにカルシウムをとられるから歯が悪くなるの？

A₁ あかちゃんにカルシウムをとられて、歯がもろくなることはありません。妊娠中はお口のケアが難しいため、むし歯や歯周病が進行しやすいのです。4~5カ月ほど一度、歯科健診を受けましょう。


Q₂ 妊婦の歯周病が早産などに関係するって本当ですか？


A₂ 歯周病が早産や低体重児出産のリスクを2倍から4倍くらい高めることが報告されています。歯周病菌が血中に入り子宮内で炎症を起こし、子宮の収縮が誘発されることによっておこるといわれています。

Q₃ 妊娠中にカルシウムを多く摂ると、歯の強い子どもが生まれますか？

A₃ カルシウムだけでなく様々な栄養がそろって、はじめて丈夫な歯が作られます。乳歯は妊娠7週頃から作られ始め、4カ月頃からは硬くなり始めます。カルシウムだけでなく、バランスのとれた食事が大切です。



妊娠と歯科治療について 

母子健康手帳をお持ちください 


歯科を受診する際には、必ず妊娠していることをお伝えください。

レントゲンについて

歯科のレントゲンは、歯の部分だけを写します。防護エプロンをつけて撮影しますので、お腹のあかちゃんへの影響はありません。ご安心ください。

麻酔について


歯科治療に用いられる麻酔の使用量はわずかです。痛みを我慢しての治療はストレスになるため、安定期には適切に使用して処置を行います。以前に歯科麻酔薬でのトラブルや、気分が悪くなったなどの経験をお持ちの場合はお申し出ください。

お薬について 

妊娠中でも安全に使用できる薬剤を処方します。


気になることがあれば、お気軽にご相談ください。

COMNET 1702

 ママとあかちゃんのお口の健康について



ママがむし歯になると、あかちゃんもむし歯になるリスクが高まります。あかちゃんがお腹の中にある“マイナス1歳”からしっかりとケアしていきましょう。

妊娠中にできること 

妊娠時によく起こるお口のトラブル


歯肉の腫れや出血

知覚過敏

歯や歯肉の痛み


口の中が乾く

気分が悪く歯みがきできない


対策①  自宅でのセルフケア


- 食後の歯みがきやうがいをこまめに行いましょう。
- ヘッドの小さな歯ブラシがおすすめです。
- つわりなどでみがけない時はぶくぶくうがいをしましょう。
- 糖分の多い飲食物や酸性食品をだらだら食べるのは控えましょう。
- 甘いものが食べたくなったら、歯科医院で販売しているキシリトール100%の製品がおすすめです。



対策②  歯科医院でのセルフケア


- 妊婦歯科健診
つわりがおさまる4~5カ月頃に、歯科健診を受けましょう。
- 妊娠時の歯科治療
治療が必要な場合は、比較的体調の安定した、妊娠中期に済ませるのが理想です。歯科治療を受ける前に、産婦人科の担当医に一度相談することをおすすめします。


あかちゃんが生まれたら 


 むし歯は感染症


生まれたばかりのあかちゃんのお口の中には、むし歯菌はいません。キスや口移し、大人が使った箸で食べさせることで、あかちゃんにむし歯菌を移してしまうことが多いのです。まず周りの大人がむし歯菌を減らしておきましょう。

対策 出産後のむし歯予防


 むし歯や歯周病は早めに治療!

 日常の歯みがきを丁寧!

 定期的に歯科医院に通ってお口のケアを受けましょう!

 乳歯のむし歯も要注意!

乳幼児は飲食回数が多い上に乳歯は永久歯と比べ、たいへん弱く、むし歯になりやすいです。乳歯は永久歯が適切な位置に生えるように導く役割があり、失われると将来ガタガタな歯並びになってしまうこともあります。

 あかちゃんの歯みがき

乳児期

舌に白っぽいカスが溜まります。ぬるま湯で湿らせたガーゼでカスを拭き取ってあげましょう。

生後7~8カ月くらい

前歯が生えてきます。歯の汚れは乳児のときと同じようにぬぐいます。かみ合う面を念入りにぬぐいましょう。

1歳が過ぎたら

歯ブラシを持たせてみましょう。ブラシに慣れたらお母さんがみがいてあげます。

